

愛媛大学医学部看護学科 同窓会だより

第8号

2010年7月発行

ご挨拶

同窓会会長 佐藤 真紀 (1期)

2010年、バンクーバー五輪の盛り上がりから始まりましたが、同窓会会員の皆様におかれましても、それぞれの道でご活躍されていることと思います。

同窓会では、昨年度の総会で承認されました、在校生（準会員）に対して『聴診器の贈呈』を行いました。贈呈式の後、ある学生が「聴診器ありがとうございました。大切に使います。」と直接声をかけてくれました。学生にとっても、実習に自分の聴診器を持っていけるといのはうれしいようで、在校生への学習支援につながることを願っています。この場をかりまして、皆様のご理解にお礼を申し上げます。

また、今年度の同窓会は少し趣向を変えて、「プラクティス・セミナー」と題して、現在の看護実践や看護教育の方向性などの講演を前半に行い、その後会食を行う計画です。講演といっても、肩肘張った感じではなく、身近な内容で最新情報に触れてもらい、皆さんの知的好奇心を刺激するものになることを目指しています。託児コーナーも準備予定ですので、お子様連れでもぜひご参加ください（詳細は後ろで）。

昨年、『同窓会だより』で名前を見て何となく懐かしくなって…、と数名の同級生が突然の連絡をくれました。とてもうれしい出来事でした。いつになっても同級生、先輩、後輩といった学生時代のつながりはかけがえのないものだと思います。普段、年賀状だけの連絡になっている人、友人を介して頑張っていると知る人、いろいろだと思えます。ただ、こうやって同窓会だよりがふと大学時代を懐かしむものになっていることは、私たち役員にとってもうれしい限りです。

皆様あつての同窓会ですので、今後も同窓会に対して何かありましたら、同期の同窓会理事の方、もしくはHPを通して可能ですのでご意見ください。また、同期の理事の方へのご協力もよろしく申し上げます。

長くなりましたが、皆様のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

看護研究はフィールドワークが基盤である

愛媛大学医学部看護学科健康科学・基礎看護学

絹谷政江

看護学科に席を移してから13年が過ぎ、14年目を迎えようとしています。

卒業生の諸姉諸兄には大変ご無沙汰いたしておりますが、学会場などでお会いする方もできてきて、声をかけてくれて嬉しく思っています。皆さんもきっと職場の中堅として、あるいは家庭生活のプロとして子育てを楽しまれている方も多いのかもしれないね。原稿依頼を受けましたので、最近の雑感から。

看護学科に移ってきてから、ずっと看護学って何を学ぶの、何を教えるのということが気になり、看護系の学会参加を欠かさずに毎年いくつかに出かけてきました。10年も経つと少しずつ見える視野が広く、かつ少しは深くなったのでしょうか？解剖学という基礎医学分野で研究生活を続けてきた身には、日本がん看護学会に出席していて看護学の展開の速さに驚きます。やはり、臨床に直結しているため、治療法が変わることや保険点数が変わることで演題の傾向が変わります。一方では、褥瘡ケアが先駆けでしたが、外来や病棟での患者指導や患者教育で看護独自の点数が取れる方向を目指して、看護現場のひとたちによってデータが積み重ねられ、その根拠作りの演題が沢山学会に出できます。また、CNSと認定看護師のひとたちの制度ができてすぐは動けずに困っておられた様子でしたが、すぐに資格取得後も勉強会を続ける機会が準備され、かつ横の連携網が作られ、目下、理想的な仕事の環境作りが模索されているようです。看護師の地位向上を目指した制度作りも着々と築かれていっている印象を持ちます。プラクティショナーの実現もそう遠くない所にきているのだと思います。在宅緩和ケアも含めて在宅看護領域がどんどん変化していています。在宅看護のレベルがあがると、高齢化する社会の一環として貢献するところが大きいことでしょう。

質的研究に魅了されて10年が経ちます。看護研究に社会学と同じグラウンデッド・セオリー・アプローチを使えるのも、同じようにフィールドワークを基本にするからだと思えるようになりました。研究室に籠もってできるものでなく、きっと臨床現場で直に患者さんを眺め、直に感じ取ってこそできることなのだろうと思います。3月初めに香川大のお世話で看護研究学会の中国四国地方会があり、木下康仁先生の特別講演を聴く機会を得ました。皆さんもご存じの修正版GTA法の創案者です。講演もよく分かり、木訥とされたお人柄のようで、はったりのない語り口で、方法論を惜しげもなく丁寧にポイントを教えてくださいました。10年間社会福祉施設でフィールドワークをボランティアでされたとか。さすがに社会学者だなあと感心しました。私など院生がもってくるフィールドのデータをいっしょに分析するお手伝いをしているだけですので、恥じ入るものがありました。本来分析するのは臨床を熟知したひと、あるいはフィールドワークで生に感じたものを大事に出来る人でないと取り組んではいけないのだろうなあと思った次第。すなわち、病棟で仕事をされているひとたちこそがされるべき方法なのだろうと思います。経験知や臨床知だけを積み重ねられずに、是非研究に取り組んでください。

もうひとつは、同じ質的研究で私が最近興味を持っているのは、現象学的な立場を取る看護研究です。現象学とは何ぞやと一念発起し、フッサールから学び直しを始めています。入門編だけの知識ですが、現象学とは認識論だというのが基本です。すなわち、患者さんに何が起きているのかを客観的に捉えることや、真実はどうだということではなく、患者さんの捉え方を大事にして、分かってあげようとする立場を取ります。きっと臨床で仕事されている皆さんは自然と患者理解にその方の背景や受け止め方を聞き取って闘病支援されていると思います。臨床の熟練者が直感を駆使し、短時間でサッと把握されることを、研究者は会話データをもとに分析して、根拠を作り、理解の筋道を立てて示し、患者経験を記述しようとしているのだと思います。患者さん理解のために、支援に役立つ記録を、貴女の

直感をぜひ論文として残してあげてください。

技術をもたれている卒業生の皆さんが職場復帰をいつでもできるためには、それぞれの看護分野の展開についていっている必要があるのだと思います。同窓会の機会に中村先生や陶山先生など多くの先生方と話されて最近の看護各分野の情報を得たり、同窓会便りをニュース・ソースとして利用されたりしてはいかがでしょうか？ そのためには、現場で活躍されている方がもっと先端の職場ニュースを同窓会誌へ掲載される必要があるのではないのでしょうか？

元気で活躍ください。私も後1年で、来春には定年退職を迎える予定です。幸い、今のところ、健康ですので、自由な時間ができれば次の10年で何かできないかなあと現在模索中です。趣味の数々も復活させて楽しみたいし…。

ではまたいつか、お会いできる時を楽しみに！ 取り敢えず、痩せないと。



野本ひさ先生が教授として学生支援センターへ 看護教育から大学教育へ

愛媛大学教育・学生支援機構 学生支援センター
野本ひさ

看護学科同窓会の皆さま、こんにちは。この度看護学科を卒業し、城北キャンパスの学生支援センターというところに異動いたしました。思えば創設期から、助手、講師、准教授として看護学科の教育・実習を軌道に乗せるべく邁進し14年間を過ごしました。現在の同窓会の皆さまとはほぼ全員、授業や実習を通して出会ってきたんだなあと感慨深く思います。平成8年に看護学科に赴任した時には子育て真っ盛りで、3歳の息子、1歳の娘を連れた働くお母ちゃんでした。よく子どもを連れて残業や休日出勤をしていましたので、当時の学生さんにはベビーシッターをお願いしたこともありましたね。今、同窓生の皆さんの近況を拝見すると創設時の学生さんたちの多くが子育て期に突入されているようで、「みんな頑張れ～！ きっと楽しいぞ！」と応援せずにはいられません。また、様々な現場で活躍しながら着々と自分の人生を築きあげておられる様子も伺って、看護職として生きていくのはとても様々な選択肢があり、自分に合った素敵な人生を選ぶことができると感じます。

この度看護教育から一旦離れることになり、看護教育ってなんだろうと改めて考える機会となりました。私が看護学を語る時に特に大切にしてきたことは、多様な対象者に柔軟に対応するための深い人間理解です。自分自身のこと、臨床で出会った患者さんのこと、教科書で学んだ理論や具体など様々な材料を取り集めて、人間を理解することの重要性を語ってきました。また患者のみを対象と捉えるのではなく患者の家族や患者の住む地域社会の特徴も踏まえた解決策を模索するのも好きで、ありきたりの看護方法ではない、その人に合ったオーダーメイドをどれだけ豊富に提供できるかが看護実践の醍醐味だと思います。そもそも私が看護学を志した動機は、病気など人生の危機的状態を解決するときにはその人のもつ回復力を支援することに加え、その人を取り巻くシステム全体を見つめ、必要に応じた組み直しが必要なのではないかと考えたことにあります。このことがライフワークになり、現在も患者とその家族の支援に焦点を当てた研究を続けています。看護実践力を確実に身につけるためには、学生時代に何を学ぶと良いかについても試行錯誤を繰り返してきました。私の持論は、「最新の知見は常に変わりゆく」ことにあります。つまり、最先端の現場の実践に必要な知識は、その時々に入れなければならないということです。20代前半に就職したら

退職するまで約40年間専門職として働くことになりましたが、変わりゆく医療現場に適応し続けるためにはどんな能力が必要なのでしょう？ 私はそれは「思考」だと思っています。看護学には看護過程という素晴らしい思考方法があります。時代の変化に伴って知識や技術が新しくなっても、適切に情報を収集し、分析し、結論付けることができれば実践力は劣化することなくアップデートされた看護技術として患者さんに提供できるでしょう。こんなことを伝えたいと思いながら14年が過ぎました。皆さんにどのくらい伝えられたかと振り返るとまだまだやり残したことがたくさんあるようにも思いますが、この度一旦看護教育の筆を擱くことになりました。

新しい仕事について、少しご紹介いたします。

現在大学進学率は約50%、世の中に出る半分の若者が大学で教育を受けているため、大学教育の社会に対する役割は益々重要になっています。これまでのように、大学の中で大学生は自然にオトナ（社会人）になっていくのではなく、大学生をオトナにするためにどのような教育支援活動が必要かを十分に検討しなければならない時代になっています。私の所属する学生支援センターは、城北キャンパス図書館の1階にあり、学生の皆さんが入学から卒業まで安心して充実した大学生活を送ることができるよう、学生支援の全学的なシステムを充実させるのが役割です。具体的には、障害を持つ学生の修学支援の充実やキャリア教育プログラムの開発と実施、ボランティア活動など正課外活動の支援、学生生活の危機管理、学生相談体制の充実などに取り組んでいます。私は本センターの副センター長としてセンターの管理・運営・実務に携わっていますが、現在力を入れている活動は大学生活への適応支援です。ここでは看護で培った教育・支援方法を大学生の学修支援に適用し、多様な学生に対する柔軟で多様な支援を心がけています。大学の中にも様々な理由で不適應状態に陥っている学生さんがおり、彼らに対する個別支援を行っていますが「なぜ学生は不適應状態に陥るのか？」、「不適應の兆候にはどのようなものがあるか？」などの学生に対する興味、つまり人間を理解したいという思いは尽きることがありません。今後は急速に複雑・多様化する現代社会を安心して過ごすために必要なソーシャル・スキル教育を大学教育の中に盛り込むことを夢見ています。大学生を立派なオトナにするためにはどんな教育活動が必要か、じっくり考えてみたいと思っています。

看護学科での15年は、よく学びよく遊んだ15年でした。青春の後半を皆さんと一緒に過ごせて、とても楽しかったです。着任したころから比べると、こころもからだも多少豊かになったのではないかと思います。看護で得た様々な学びをさらに発展させて社会にお返しすることが、看護学科の皆さんへのご恩返しにつながればいいなと思っています。

またいつかお目にかかれる時を楽しみにしております。

平成21年度 同窓会総会・同窓会のご報告

平成22年度 同窓会総会・同窓会のご案内

同窓会総会ならびに同窓会を下記の日程で開催いたします。今年は、同窓生の方をお迎えし、ブラクティスセミナーを試みる予定です。託児所も設けておりますので、お子さま同伴のご参加も大歓迎です。

同窓会のご案内

日 時：平成22年9月18日(土) 13:00～16:30

12:30～ 受付開始

13:00～14:00 ブラクティスセミナー

1. 愛媛大学医学部看護学科 学科長 中村 慶子

「最近の看護教育の動向」

2. 2期生 白石 志乃さん「産業保健師としての家庭と仕事の両立生活」

3. 4期生 作田 裕美さん「リンパ浮腫について」

14:20～14:50 同窓会総会

15:00～16:30 懇親会（軽食とデザートを用意しております）

場 所：オールドイングランド道後山の手ホテル 山の手倶楽部

愛媛県松山市道後鷺谷町1-13

TEL: 089-998-2111 URL: <http://www.dogo-yamanote.com/>

会 費：同窓会会員様 **無料**

同窓会費未納入者：5,000円/人

お子さま 4歳まで 無料

5歳以上 500円/人

●託児所のご利用について

託児時間：受付開始から同総会終了まで

対象年齢：6ヶ月～12歳

委 託 先：(株)マミーズファミリー

託 児 料：傷害保険料 210円

申し込み：返信用ハガキに必要事項をご記入の上、投函して下さい。

当日申し込みも受け付けております。

※不測の事故に対応するため、シッター会社が保険に加入しており、保険適用範囲で補償いたします。
また、愛媛大学医学部看護学科同窓会は事故の責任は負わないことを申し添えます。



●お風呂について

同窓会当日

【温泉入浴無料サービス】

タオルなどのアメニティーが揃っていますので
そのままお入りいただけます。

はじめに入るもよし!
終わってから入るもよし!!



●アクセス



平成21年度 決算報告

1. 収入の部	計	9,599,863円
平成20年度繰越金		8,402,021円
繰越金利息		4,842円
同窓会費振り込み(4名)		80,000円
同窓会子ども参加費(6名)		3,000円
13期生同窓会費(20,000円×55名分)		1,100,000円
お祝い		10,000円
2. 支出の部	計	2,286,228円
抗体価検査代(59名分)		295,000円
聴診器代(199名分)		1,393,840円
同窓会だより		275,492円
同窓会総会・同窓会開催費		229,678円
同窓会理事会開催費		49,192円
同窓会役員会開催費		13,160円
通信費		20,140円
文具		9,726円

～同窓会費より準会員さんに聴診器の贈呈を行うことになりました～ IMG Sonorite Specialized Double Face



平成21年度より、準会員である在校生への支援として、聴診器の贈呈を行うこととなり、実習に臨む2、3、4年生及び編入生に対し、贈呈式を行いました。聴診器は、学内での技術演習や臨地実習などに必須のアイテムですが、自分専用の聴診器を持つことで、学習の効率や意欲の向上を支援する予定です。

耐久性も音響特性も優れた聴診器は、なんと全16色。在校生には好きな色を選んでもらいました。聴診器を使うたびに、同総会の存在を思い出してもらえたらと考えています。



一番人気はピンク色。
チェストピースには
「愛大看護学科同総会」の刻印入り。

※平成22年度からは、感染症抗体価検査への支援は廃止し、聴診器も2年生及び3年次編入生のみで贈呈する予定です。



☆卒業生の近況報告☆



(平成21年7月のご報告より)

* 平成22年度 教職員紹介 *

(平成22年4月現在)

専攻長 中村慶子					
講座	教授	准教授	講師	助教	教務・事務
健康科学・ 基礎看護学	吉村裕之 絹谷政江 乗松貞子	赤松公子		中島紀子 城賀本晶子	岡田治美 池内美保
臨床看護学	中村慶子 伊賀上睦見 重松裕二 濱耕子	香川由美子	薬師神裕子	井上仁美 後藤淳歩 山崎綾子 光井弘子 内門子明 永田純 森万	
地域・老人 看護学	岩田英信 陶山啓子 西嶋真理子		田中久美子	井出彩子 形上五月	

下線印：正会員

◎ 住所不明の同窓会会員様 ◎

以下の方々のご連絡先が不明です。心当たりのある方がいらっしゃいましたら、同窓会までご連絡ください。

1期生	久保(白岩)悦子						
2期生	岡本 真理		進藤 綾				
3期生	大磯(靑山)純子	榎本 信子	笹井 理恵	平岡 留美	宮地 知里		
4期生	安藤比奈子	大場友美子	佐藤 睦	松永 久美	松本 美文		
5期生	井門久満枝	片山 史絵	川添由美子	菰田恵梨子	北川真理子		
6期生	大井 律子	北山明日美	佐倉真由美	塩崎 愛水	神森あすか	杉本 京子	
	中村 真弓	服部 弥生	本多 美永	松原 美輪	三浦(吉田)知加	山下久美子	
7期生	池田 浩恵	岡田 宏子	片田 由香	曾我部(八木)香織			高橋詩野美
	富田 千恵	中濱 好美	三瀬(高田)白雪	道平 望美			
8期生	後藤 恭子	曾 冬妍	竹内 哲也				
9期生	相田さやか	芦邊さつき	板谷 果林	梅本 聡子	越智奈穂美	高須賀 睦	
	田村 尚子	新内香菜子	羽澤 晶里	村上 恵	渡辺 彩子		
10期生	上田 裕子	小林由布子	澤田 恭子	吉川 亜弥			
11期生	稲田 麻衣	川島 鮎美	高橋 良太				

五十音順 敬称略

★同封しております郵便はがきのご返信をお願いいたします。(8月末日までをお願いいたします。)

住所確認・同窓会総会ならびに同窓会参加について・近況報告欄・その他について、ご記入をお願いいたします。

★同窓会では準会員(現在、愛媛大学医学部看護学科に在籍中の学生)への就職支援として、会員のみなさまの連絡先をお知らせすることがあります。準会員から連絡がありましたら、温かな励ましやご支援のほど、よろしくお願いいたします。

お便りをお寄せください

会員のみなさまの近況報告をお寄せください。また、同窓会だよりで取り上げてほしい企画や同窓会の運営についてのご意見等、何でも大歓迎です。お便り・FAXをお待ちしています。

〒791-0295 愛媛県東温市志津川
「愛媛大学医学部看護学科同窓会」係まで
URL : <http://www.aidaikango.jp/>
メールアドレス : aidai-kango@m.ehime-u.ac.jp
TEL : 089-960-5422 (看護学科事務室)
FAX : 089-960-5423

★★★ 同窓会だより係 ★★★

1期生：後藤 淳
3期生：入田ひとみ・城賀本晶子・平田 美雪
5期生：十川 明子・平間 直美・肥後恵美子
8期生：十亀 麻未・中村美帆子
12期生：勝田 智子・二宮 美佳

【編集後記】

後藤 淳：今号の編集も口ばかり出し、手は出さず…の状態でした。私以外の優秀な編集者方が一生懸命仕上げてくださり、素敵な同窓会便りになりました。会員の皆様がこの同窓会便りを手にとって学生時代を懐かしんでくれたらなあ、と思っています。

(今の時期は暑苦しい) 3匹の猫とともに…。



城賀本晶子：今年の同窓会は道後で開催ということで、学んで、食べて、お風呂に入って、沢山の同窓生の方とお会いできるのを楽しみにしております。また、皆様の職場の風景やご家族との思い出など、お写真のご投稿も募集しております。上記、同窓会係まで、メール添付もしくは郵送にてお寄せ下さい。

中村美帆子：この4月から、今治市で保健師をしています。てんてこまいの毎日ですが、頼れる先輩方と楽しく働いています。

今治市健康推進計画の「健康ちゃん」です。

